

# 令和4年度学力向上推進計画

「書く力」「読む力・読み取る力」の育成を軸とする学力向上の取組

亀山市立井田川小学校

★印は、亀山市の重点項目（③話す・聞く ⑥まとめる ⑨見通す）に関わることです。

## I めざす子ども像

自己実現のために、自ら進んで意欲的に学習や生活をする子ども

## II 子どもたちの学力や学習・生活の状況等

### <学力に関して>

- ★相手を見て、反応しながら聴くことができる児童が増えてきた。「同じ」「賛成」は言えるが、「疑問」や「反対」などの意見を言える児童は少ない。
- ・書く力がついてきた。しかし、心情や情景を表す言葉を用いて感想を書いたり、条件に合わせて書いたりすることについては課題が見られる。
- ・基礎学力及び既習内容の定着に課題が見られる。
- ★予想や仮説を立てることはできるが、理由や根拠が乏しい。

### <学習・生活の状況に関して>

- ・よりよく解決しようとする姿や、さらに追求して考えようとしたりする姿勢が少ない。
- ・家庭学習の取り組み内容・時間に差がある。
- ・登下校や放課後に地域でのトラブルが多い。
- ・学年が上がるにつれて、オンラインゲームやSNSを使用する児童が多く、生活習慣の乱れが見られる。
- ・家庭で読書に取り組む時間が短い。

## III 指導改善のための計画（ポイント）

### <学力に関して>

- ・「めあて」と「ふり返し」が正対した授業の実施
- ★話す・聞く活動の充実
- ★ICT機器の効果的な活用とノート指導の両立
- ★基礎学力を定着させ、学びの連続性を図る

### <学習・生活の状況に関して>

- ・学習習慣の改善
- ・学校図書館の積極的な活用、読書習慣の改善
- ・規則正しい生活習慣の啓発
- ・主体性を高めるための自治的活動の充実

## IV 具体的な取組

### <確かな学力を身につける授業の改善>

- ★話す・聴くルールの徹底と掲示物を活用した指導を行う。
- ★考えを書いたり話したりする際に、理由や根拠を明らかにする習慣をつけていく。音読の際に読み方を工夫させたり、考える視点を与えたりするなどし、音読指導の充実を図る。
- ★発達段階に応じた目指す対話の姿を確立する。
- ★ねらいに応じて、個人・ペアやグループ・全体で解決する場を設定する。
- ・つきたい力を明確にした単元構想を立て、つきたい力に応じた言語活動を設定する。また、身につけさせたい語句についても考え、それらを用いた短文づくりなどを行う。
- ・授業での発言やふり返し記入の際に、キーワードを示し、学習した用語を用いるように指導していく。
- ★ICT機器を有効に活用し、資料の分類や文章の構成、編集を行う。

### <組織的に取り組む学校体制の確立>

- ・学習規律や生活のルールについて、全教職員が統一した指導を行う。
- ・年7回の研究授業と一人一回以上の授業公開を行い、授業方法を学んだり授業改善につなげたりする。
- ・学力調査やミエスタの結果分析を行い、子どもつまずきを把握し、授業改善につなげる。
- ・家庭学習について定期的に見直しを行い、取り組み時間や内容が適切であるかを検討する。また、家庭での自主学習や読書の推進、基礎学力向上のためのワークに取り組む。
- ・水曜5限目（月2回）に「ぐんぐんタイム」を行い、子どもの実態に応じた内容を各学年で考え、計画的に取り組む。
- ・図書館司書と連携を図り、図書館利用の推進や関連図書の紹介に取り組む。

### <指導力を高める研修の推進>

- ★研究主題に迫るための3つの視点（適切な課題、効果的な介入、学び合う姿）を意識して日々の授業を行ったり、参観したりする。
- ★ICT機器を授業のねらいに応じて効果的に使用できるように研修を行ったり、成果について検証したりする。
- ・ノートやワークシート、言語活動などから「めあて」と「ふり返し」が正対しているか、ねらいとする力をつけることができているかなどについて、実践交流を実施する。
- ・示範授業、OJT研修を実施し、授業力の向上を図る。

### <家庭・地域との連携の強化>

- ・家庭学習の手引きや手本の配付、ノートの掲示や紹介をし、家庭学習の質を高めることをねらう。
- ・各種通信・学校ホームページにて情報を発信する。
- ・コミュニティ・スクールとして、地域の取り組みや人材に学び、地域とともにある学校づくりを推進する。
- ・学習ボランティアと教職員が連携を密にとり、放課後子ども学習や読み聞かせボランティアを実施する。